

令和7年度

# 事業計画書

学校法人 常葉大学

# 目 次

|                    |   |
|--------------------|---|
| 1. はじめに .....      | 1 |
| 2. 重点事業計画 .....    | 2 |
| 3. 管理・運営計画 .....   | 3 |
| 4. 財務計画 .....      | 5 |
| 5. 施設・設備整備計画 ..... | 6 |
| 6. 教育活動計画 .....    | 7 |

# 1. はじめに

理事長 木 宮 健 二

厚生労働省が発表する年間出生数は9年連続で過去最低を更新し続け、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口の予測よりも約15年早いペースで少子化が進んでいます。コロナ禍から続く出生数の大幅な減少傾向は今後も続く見通しであり、急速に進行する少子化を背景に、中央教育審議会大学分科会の特別部会では将来の社会に向けた高等教育の在り方について、審議が進められております。

とりわけ、地方の私立学校にとっては、入学者数の確保や教育の質の維持・向上がこれまで以上に重要な課題となっております。加えて、地域社会の縮小や若年層の都市部への流出といった現象が進行する中、私立学校が地域に根差した教育機関として持続的に発展していくためには、新たな学びの提供や、地域との連携をより一層強化することが求められているところです。

この様な中であって、本法人は、令和10年4月に常葉大学浜松キャンパスをJR浜松駅南口から徒歩7分の旧高砂小学校跡地に新築・移転する計画を進めております。令和7年1月8日に浜松市との間で用地売買契約を締結し、新校舎の設計段階に入りました。駅近くへの移転は、学生の通学上の利便性を高め、志願者数の増加が見込まれるとともに、県外への若者の流出を押し止め、地域への人財供給によって地域経済を下支えすることに寄与するものと存じます。

一方で学校運営面においては、令和5年に改正された「私立学校法」が、令和7年4月1日から施行されます。この改正は、わが国の私立学校が社会の信頼を得て一層発展していくことを目的としており、社会の要請に応える実効性のあるガバナンス改革を推進するための制度改革です。本法人においても、この法令に基づき、令和6年度に寄附行為の変更を行い、同時に内部統制システムの整備に着手いたしました。理事会、監事、評議員会の権限を明確化し、私立学校の特性に応じた「建設的な協働と相互けん制」を確立することによって、意思決定の迅速化と透明性の向上、ガバナンスの強化を目指してまいります。

本法人ではこの事業計画書で定めた重点事業を着実に実行し、少子化の進行に柔軟に対応しながら地域に根差し、選ばれる教育機関であり続けるために、安定的かつ持続可能な経営を実現していきたいと思っております。皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 2. 重点事業計画

重点事業計画は、私立学校及び本法人を取り巻く現況を踏まえ、設置する各学校等の教育事業及びこれに附随する事業を法人として推進するために策定したものです。

本法人の長期ビジョン『地域と連携し、地域創生に貢献する』及び第2期中期計画（実施年度：令和3年度～令和7年度）との整合性にも配慮して策定しました。

令和7年度におきましては、下記6つの重点事業計画を着実に実行してまいります。

- (1) 常葉大学浜松キャンパス移転及びキャンパス整備の推進 <継続、一部新規>
- (2) 改正私立学校法及び変更寄附行為の趣旨に則った理事会、評議員会等の適切な会議運営によるガバナンスの強化 <新規>
- (3) 第3期中期計画（実施年度：令和8年度～令和12年度）の策定 <新規>
- (4) 募集活動の強化 <継続>
- (5) 大学及び短期大学と附属高校との高大接続教育の推進 <継続>
- (6) 事務の電子決裁システム等のDX化<sup>\*</sup>導入計画の推進 <継続>

<sup>\*</sup>DX化

「DX」は Digital Transformation の略語。データ及びデジタル技術を活用して業務自体または組織、プロセスを変革すること。デジタル技術の活用が単なる業務効率化やコスト削減に留まらない点が、IT化とは異なる。

### 3. 管理・運営計画

管理・運営計画は、本法人のガバナンス強化、業務の効率化、人事制度の適正化など、持続可能で透明性の高い法人運営を実現するために策定したものです。

本法人の中長期ビジョン及び重点事業計画を踏まえ、法人規程の体系的な見直し、働き方改革の推進、監査機能の強化などの施策を着実に実行してまいります。

#### (1) 法人の規程体系の再構築

令和元年度の学校法人常葉大学管理規則の見直しを契機に、令和6年度の学校法人常葉大学寄附行為の大幅な改正など、法人の規程体系の再構築に向けた準備に取り組んでまいりました。この間、規程等改正委員会の審議等を活用して、法人諸規程の制定改廃を行いました。

一方、本法人の諸規則において、規則・規程・細則等の制定に関する基準が明瞭ではない上、それらの規則等の制定改廃権者、細則等への委任及び所管課に関する規程もないために、諸規則内における制定改廃権者、細則等への委任及び所管課に関する定めの有無が混在しています。

このため、規則・規程・細則等の制定に関する基準を定めるとともに、制定改廃権者、細則等の委任規定及び所管課の根拠規定を適切に各規程に定めて、わかりやすく、運用しやすい規程体系の再構築を実施してまいります。

#### (2) 働き方改革の推進及び人事制度の再構築

働き方改革の推進については、中学・高校の教員に導入した1年単位の変形労働時間制度の適正な運用の定着化を進めております。また、令和6年度の常葉大学附属橘中学校・高等学校に対する部活動を含む時間外勤務についての静岡労働基準監督署による指導に基づき、令和7年度から教員各々の業務量に応じた勤務シフトを整備し、適正な運用を図ってまいります。事務職員のキャリアパス複線化については、本法人における制度設計の原案を令和6年度に完成させました。本制度の導入にあたっては、職員の人事や給与に関わることであり、丁寧な説明期間を設ける必要があると考え、令和7年度に事務職員にアンケート方式で意見を求めることとしました。令和8年度の制度導入に向けて着実にその準備を進めてまいります。

### **(3) 自己点検・評価、認証評価、第三者評価、学校評価の推進**

法人内各校（園）は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するために、教育研究活動等の状況について自己点検・評価、認証評価、第三者評価及び学校評価を行います。それによって、教育研究活動の継続的な質の保証を図るとともに、自主的な改革・改善に引き続き取り組んでまいります。

### **(4) 監査機能の強化**

監査体制については、私立学校法に会計監査人の職務が明示されたこと及び学校法人常葉大学内部統制システム整備の基本方針が策定されたことを踏まえ、ガバナンスの確保・強化を前提とした健全かつ効率的な法人運営のため、監事、会計監査人及び内部監査部門のさらなる連携の強化と監査の質の向上を推進してまいります。

## 4. 財務計画

学校経営は、少子化の進行や急速な物価高騰など、ますます厳しい環境に置かれております。こうした状況下においても、安定的に教育研究活動を行い、永続的に発展することを可能とする財務体制を確立するため、以下の施策に取り組んでまいります。

### (1) 財務基盤の強化

十分に教育研究活動に投資したうえで、事業活動収入と支出の均衡を図り、より強固な財務基盤を構築してまいります。

併せて、「学校法人常葉大学資金運用規程」に基づき、金利の変動など経済の動向に注視しながら、資金を安全かつ効率的に運用し、運用益を確保してまいります。

なお、常葉大学浜松キャンパスの移転に伴う事業については、これまで積み上げてきた金融資産を原資に事業遂行することとしております。

### (2) 事業の効率的執行と経費の削減

予算編成は、中長期計画に基づき、費用対効果などの観点から厳格な査定を行っております。同時に、策定した予算の執行についても慎重に精査を行い、経費削減に努めてまいります。

また、予算と実績に乖離があった場合は、分析を行い、予算の効率的執行を図ってまいります。

## 5. 施設・設備整備計画

学校施設は、学生・生徒・児童・園児が学習と生活の場として一日の大半を過ごす重要な場所であるばかりか、災害時には近隣住民の緊急避難先にもなる重要な施設としての性格も併せ持ちます。したがって、通常時や緊急時においても安心・安全な施設としての機能を維持することを最優先するとともに、急速な少子化や情報化社会の進展など、様々な社会環境の変化に的確に対応できるよう計画的な整備を進めてまいります。

令和7年度は、大型事業として常葉大学浜松キャンパスの移転事業、常葉大学静岡水落キャンパス校舎増築事業を推進するほか、情報教育にかかる設備の整備・更新を推進してまいります。

### 【令和7年度 大型事業】

#### (1) 常葉大学浜松キャンパス移転事業

校舎設計、施工契約、工事着工

#### (2) 常葉大学静岡水落キャンパス校舎増築事業

校舎設計、施工契約、工事施工

#### (3) ICT（情報通信技術）教育設備整備推進事業

①常葉大学・常葉大学短期大学部

②常葉大学附属菊川中学校・高等学校

#### (4) OSサポート終了に伴うパソコン等更新事業

①常葉大学静岡草薙キャンパス、静岡水落キャンパス、浜松キャンパス

②常葉大学附属常葉中学校・高等学校

③常葉大学附属橋中学校・高等学校

④常葉大学附属菊川中学校・高等学校

## 6. 教育活動計画

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、社会や時代の要請に対応した新たな教育研究に取り組むことによって、更に充実した教学運営を行うことを目指しております。令和7年度も、第2期中期計画における教育活動の実施状況を踏まえながら、以下に掲げる計画を中心に推進してまいります。

### ○ 大学・大学院、短期大学

#### 〈常葉大学・大学院〉

#### 1. 教育力の向上と学生支援の強化

- (1) 教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けて教育改革を推進するとともに、IRの定着を図り、教育力の向上並びに学生支援に活用します。
- (2) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、教職員と学生の協働を進めます。
- (3) 変化する時代を見据えたキャリア教育に基づき、個々の学生の希望をかなえる就職・進学支援を強化します。

#### 2. 研究活動の推進

- (1) 企業等との共同研究を含め、外部資金の獲得に向けて、研究支援の強化を継続します。
- (2) 総合大学の特色をこれまで以上に活かした共同研究支援を推進します。

#### 3. 学生募集の強化と高大連携の推進

- (1) 18歳人口減少に対応した学生確保対策を推進します。
- (2) 附属高校入試の実施を通して、高大接続教育を更に推進します。
- (3) 探究に関する学習支援を通して、高大連携活動を強化します。

#### 4. 地域貢献、国際交流の推進と同窓会との連携活動の充実

- (1) 産学官の連携事業を通し、持続可能な地域社会の実現に貢献する人材を養成し、地域課

題である人口流出防止対策を推進します。

(2) 異文化交流を含めた本学の国際交流の取り組みを整理し、活性化案を策定します。

(3) 同窓会のネットワークづくりに着手し、大学と同窓生組織との連携強化を継続します。

## **5. 業務運営等の充実及び改善**

(1) 学内広報を充実させるとともに、教職協働及び連携を強化し、組織運営の確立を目指します。

(2) 研究倫理教育を含め、コンプライアンス遵守のための啓発活動を継続します。

### **〈常葉大学短期大学部〉**

#### **1. 教育力の向上と学生支援の強化**

(1) 教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けて教育改革を推進するとともに、IR の定着を図り教育力の向上並びに学生支援に活用します。

(2) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図り、教職員と学生の協働を進めます。

(3) 変化する時代を見据えたキャリア教育に基づき、個々の学生の希望をかなえる就職・進学支援を強化します。

#### **2. 研究活動の推進**

(1) 外部資金の獲得に向けて、研究支援の強化を継続します。

(2) 研究の質の向上を目指し、常葉大学と連携し共同研究や研究者交流に取り組みます。

#### **3. 学生募集の強化と高大連携の推進**

(1) 18 歳人口減少に対応した学生確保対策を推進します。

(2) 附属高校入試の実施を通して、高大接続教育を更に推進します。

(3) 探究に関する学習支援を通して、高大連携活動を強化します。

#### **4. 地域貢献活動の推進と同窓会との連携活動の充実**

(1) 産学官の連携事業を通し、持続可能な地域社会の実現に貢献する人材を養成し、地域課題である人口流出防止対策を推進します。

(2) 同窓会のネットワークづくりに着手し、短大と同窓生組織との連携強化を継続します。

## 5. 業務運営等の充実及び改善

(1) 学内広報を充実させるとともに、教職協働及び連携を強化し、組織運営の確立を目指します。

(2) 研究倫理教育を含め、コンプライアンス遵守のための啓発活動を継続します。

## ○ 高等学校、中学校

〈常葉大学附属常葉中学校・高等学校〉

### 1. 教育活動

(1) 学習指導（中高一貫教育を含む）

① 新入生が高校（中学校）の学習にスムーズに移行するために、高校（中学校）の学び方を身につける仕組みをシラバスの中に組み入れ徹底します。

② 中学校は「常葉の学びプロジェクト」を通して、創発的な学びを探究し、対話力や表現力を高めます。

③ 高校は、高大連携講座の内容を絡めて大学や地域と協働して探究的な学習を推進し、「探究フェスタ」をはじめとした発表する機会に挑戦することを通して、生徒の自信につなげます。

(2) 常葉大学及び常葉大学短期大学部との高大接続教育

① 高大連携講座の内容を見直し、学年毎のキャリア教育の充実を図るとともに、探究的な学習においては、年間を通して常葉大学及び常葉大学短期大学部の連携講座担当教員と協働し、双方向の学びを推進します。

② 「水落 One Campus プロジェクト」（人的な交流と施設共有）の1つとして、10月に中高文化祭と大学祭を同日開催し、その過程において大学生と生徒たちとの交流を活発にします。

(3) 進路指導

① 附属高校入試の制度を高校1年次から理解させ、3年次在籍者の半数以上が、常葉大学及び常葉大学短期大学部へ進学できるように指導をします。

②特別進学コースにおける、地元国公立大学の進学者を増やすことを目指した教育活動を1年次から計画的に実施し、国公立大学への進学者輩出を目指します。

③進学対策で必要な読書指導、新聞を活用した学び(NIE)、小論文指導の徹底を図ります。

## 2. 生徒募集・広報活動

### (1) 広報活動における電子媒体の活用

①「小さな学校の大きな教育力」を全面的にアピールする内容をホームページやInstagramなどのSNSを通して発信します。

### (2) 特色や魅力の発信力強化

①中学・高校の学校説明会を合同で開催します。

②Open School Day を年3回実施します。

③高校説明会参加者の前年比20%増を目指した情報発信を強化します。

④中学入学者確保を目指した小学校低学年対象の広報活動を強化します。

## 3. 学校運営

### (1) 組織の活性化

①令和8年度から中学・高校の収容定員及びカリキュラムの大幅な見直しを行い、学則を変更します。また、このことに伴う様々な変化を学校の進化の機会と捉えて「ダーウィンプログジェクト2025」と称し、教育内容や校舎活用の検討を行います。

②中学・高校の職員室を1つにすることによって、学年枠を超えた協力体制を整えます。また、令和8年度からの「チーム担任制」導入に向けて、令和7年度から試行し、制度の制度設計について検討します。

③教員の集中した働きや仕事の効率化による働き方改革を推進するために、部活動の再編や活動内容の見直し、新校務システムの導入に伴う業務の見直し等を行います。

### (2) 教員の教育力強化

①すべての教員が電子黒板を日常的に使いこなし、授業効率を上げるとともに、視覚的にわかりやすい授業を展開し、思考力や表現力を高める授業改革を進めます。その過程を6月の附属3中高合同授業研修会で公開します。

②教員の授業力向上を図るために、校内研修会の年2回以上の実施や1人1回以上の公開授業の実施のほか、外部研修への参加を推奨します。

### (3) 生徒指導

- ①生徒ファーストの生徒指導に徹し、生徒の社会性や自律性を養うことで、生徒の満足度を高めます。
- ②すべての活動において生徒自身が考え、主体的に活躍できる場を提供し、学校生活に充実感や満足感を持てるように導きます。

### (4) 保護者・卒業生・地域との連携

- ①令和8年度の創立80周年に向けて、同窓会を中心に具体的な内容を検討します。
- ②常葉大学静岡水落キャンパスの大学祭と同日に開催する文化祭を通して、地域との交流を進めます。

## 〈常葉大学附属橘中学校・高等学校〉

### 1. 教育活動

#### (1) 学習指導（中高一貫教育を含む）

- ①基礎学習を徹底させた上で、教科横断型教育・STEAM教育を推進します。
- ②スクールポリシーに沿った授業を展開し、問題解決型学習や探究型学習を推進することによって、生徒それぞれの個別最適な学びを実践します。

#### (2) 常葉大学及び常葉大学短期大学部との高大接続教育

- ①常葉大学及び常葉大学短期大学部の持つ知的資源を有効に活用し、キャリア教育をはじめ多岐に渡る協働を行い、教育活動を充実させます。
- ②常葉大学及び常葉大学短期大学部の学生との交流等を深め、将来の視野を広げるような取り組みを目指します。

#### (3) 進路指導

- ①変化に富む受験状況に適応すべく適切な時期に進路行事を実施し、生徒が主体的な進路選択を実現できるよう指導します。
- ②小論文講座などを通じて生徒の言語活動を活発にし、受験対策で必要な小論文や面接に対応できる表現力の習得を目指します。
- ③附属高校入試について、生徒・保護者への制度理解を図るとともに、高大接続教育を通じた常葉大学及び常葉大学短期大学部への進学指導の充実を図ります。

## 2. 生徒募集・広報活動

### (1) 広報活動における電子媒体の活用

- ①定員確保に向けて早期に戦略を策定し、ホームページや SNS を利用し、トレンドを意識した戦略的な広報活動を実施します。

### (2) 特色や魅力の発信力強化

- ①在校生を募集活動に積極的に参画させ、生徒目線を意識したイベントを実施します。

## 3. 学校運営

### (1) 組織の活性化

- ①教育開発部を中心に各分掌・科コースの教職員が一体となり、スクールポリシーに基づいた橋の「新しい教育」を推進します。
- ②働き方改革の推進のために、組織として働きやすい勤務体制の実現を目指します。

### (2) 教員の教育力強化

- ①外部団体と共同で学校の抱える課題を顕在化させ、問題解決や教員の資質向上に資する研修を実施します。
- ②若手教員を中心に校内外で教員研修（タチバナ研修）を実施し、その成果を校内で情報共有することによって、教育活動全般の改善に努めます。
- ③計画性のある指導と評価の一体化を目指し、授業アンケート等の評価を通じて、授業内容の改善を図ります。

### (3) 生徒指導

- ①規律の意味を考えさせることによって、自らが置かれた状況を主体的に判断し、TPO に応じた行動ができる生徒を育てます。
- ②生徒自らが考えた判断を尊重し、生徒の成長に寄り添い、生徒指導から生徒支援に変化させます。
- ③災害に備え、教員・生徒一人ひとりが危機管理を行えるよう、避難訓練等では専門家の助言を得ながら、実践的に取り組みます。

### (4) 保護者・卒業生・地域との連携

- ①静岡市 SDGs 共同宣言校及び文部科学省認定の地域協働推進アソシエイト校として、地域企業や行政等と協働した活動を通して生徒に社会的課題の発見や多様な視点の持ち方を学習させ、地域社会への貢献意識を高めます。

- ②PTA・同窓会などのステークホルダーと連携し、生徒のキャリア教育や学習意欲に資する講演等を実施し、意識向上と愛校心の醸成が一体となった活動を推進します。

## 〈常葉大学附属菊川中学校・高等学校〉

### 1. 教育活動

#### （１）学習指導（中高一貫教育を含む）

- ①授業で学んだ基礎知識を基にして多面的な思考力を養います。
- ②ICT を授業の中で活用することで知的好奇心を育む授業を展開し、論理的な思考力を養います。
- ③探究学習において SDGs を学び、地域社会の課題を考え、表現する力を養います。

#### （２）常葉大学及び常葉大学短期大学部との高大接続教育

- ①ロングホームルーム活動やレポート作成を通じて、常葉大学及び常葉大学短期大学部における学びを知る機会を増やします。
- ②探究学習やロングホームルーム活動において、常葉大学及び常葉大学短期大学部と連携した各種講座を開設し、高大接続強化に努めます。

#### （３）進路指導

- ①生徒一人ひとりに合わせたきめ細かな進路指導に努めます。
- ②卒業生（学生・社会人）と連携したキャリア教育を行います。

### 2. 生徒募集・広報活動

#### （１）広報活動における電子媒体の活用

- ①SNS を活用して学校説明会への参加を促す取り組みを行います。

#### （２）特色や魅力の発信力強化

- ①高校の学校説明会では、映像等を駆使して生徒・保護者に本校の特色ある教育の内容を紹介します。
- ②中学の学校説明会では、中高 6 カ年の充実した一貫教育について、具体的に紹介します。
- ③在校生や卒業生の力を借りながら、多くの方に本校の魅力を広めます。

### 3. 学校運営

#### (1) 組織の活性化

- ①学校全体に「応援文化」を広めます。頑張っている人を応援し、励ましあう校風を作ります。善行や入賞などを集会で発表し、ホームページなどでも公表します。
- ②各科、コース、分掌が情報を共有し、問題点を多方面から検討します。そのために幹部職員で組織する運営委員会を活性化させます。

#### (2) 教員の教育力強化

- ①ICT 教育や新しい教育ツールの研修と活用に努めます。個々の教員のスキルを他の教員と共有し、教育力の向上を図ります。
- ②生徒への授業アンケートを通して、授業の改善と向上に努めます。
- ③教職員のモラル、コンプライアンス等の研修会を行い、生徒・保護者から信頼される学校づくりを行います。

#### (3) 生徒指導

- ①部活動や学校行事を通し、生徒の社会性の育成に努めます。
- ②ボランティア活動への積極的な参加によって、地域社会に貢献する意識を高めます。

#### (4) 保護者・卒業生・地域との連携

- ①菊川市とのフレンドシップ協定「みらい学」の地域探究学を通して、地域貢献に努めます。
- ②PTA、同窓会、後援会との活動を在校生の教育を支える事業につなげます。

## ○ 小学校、こども園

### 〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

#### 1. 教育活動

##### (1) 学習指導（生きる力を身につけた児童の育成）

- ①「自ら学び、共に追究する子の育成」を研究テーマとし、児童の主体性を高める内容になるように授業改善を進めます。

##### (2) 小中一貫教育の検討

- ①本校と附属中学校の教育計画の中から連携できる行事や活動を検討し、実施回数を加増させます。

### (3) 学校間連携

- ①常葉大学教育学部附属の研究実践校として、教育学部との共同研究による質の高い授業実践に努めます。
- ②教育学部生によるスクール・サポート・スタッフ事業をさらに充実、発展させます。

## 2. 児童募集・広報活動

### (1) 学校説明会の改善

実施内容を見直し、本校の教育活動の特色を分かりやすく説明することで参加者に理解していただくように努めます。

### (2) 特色や魅力の発信力強化

- ①「小学校で遊ぼう」を年3回実施します。
- ②出張授業等を実施して、幼稚園との交流機会を拡大します。
- ③オーケストラの出前演奏を実施します。
- ④園児の小学校ツアーを実施します。

## 3. 学校運営

### (1) 組織の活性化

- ①「変える・変わる」をモットーに大胆な学校改革に挑戦します。

### (2) 教員の資質向上

- ①各種研修会や研究会への参加、学会での実践発表、県内外の先進校視察等を行い、授業力の向上を図ります。

## 〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園〉

### 1. 教育活動

#### (1) 子どもの健康・安全の確保

- ①園児が安全に過ごせる園の環境づくりを推進します。
- ②収穫体験や調理体験を家庭とも共有し、園児の食への関心を高め、食育の充実を図ります。

#### (2) 充実した保育・教育活動の実施

- ①園児の積極性、主体性、能動性を高め教育・保育のための環境整備を実施します。

②幼保連携型認定こども園教育・保育要領の『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』の視点に立ち、豊かな体験を通して乳幼児期の資質・能力を育む保育に努めます。

(3) 常葉大学、常葉大学短期大学部及び附属橘小学校との連携

①学生の教育・保育実習の受入れや常葉大学及び常葉大学短期大学部からの研究協力等を通じて、担当保育教諭との共同体制が構築できるように保育計画の作成を工夫します。

②円滑な幼小接続活動の推進・連携をするため「幼小架け橋プログラム」を取り入れ、5歳児の園生活と1年生の学校生活とのつながり方を検討します。

## 2. 園児募集・広報活動

(1) 広報活動における電子媒体の活用

①Instagramを活用し、より大勢の方に日常の保育の様子や園の教育・保育方針を公開することで、効果的に園を広報します。

(2) 特色や魅力の発信力強化

①未就園児親子にも園行事に参加してもらい、在園児保護者と子育て等に関して情報交換をする機会を設けて園の良さをアピールします。

## 3. 園運営

(1) 園行事の柔軟な実施

①園児の育ちに応じた園行事を計画し、園児が積極的、自主的に参加したくなる内容や方法を検討します。

②保護者の行事参加を通して親子の愛着形成の重要性を理解してもらい、乳幼児期の子育ての重要性を一緒に考えられるように工夫します。

(2) 職員及び職員組織の力量の向上

①同僚性の構築や、子ども理解につながる保育記録の工夫など、教育・保育の質向上に努めます。

②研修を通して、乳児、特別支援、カリキュラム・マネジメントなど、それぞれの立場に必要な保育実践の知識を深めます。

### 〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園〉

#### 1. 教育活動

(1) 子どもの健康・安全の確保

- ①園児が安全に過ごせる園の環境づくりを推進します。
- ②人権尊重の視点に立った教育・保育を実施します。
- ③検証改善をふまえて交通安全指導や防災訓練を実施します。

(2) 充実した保育・教育活動の実施

- ①本園の「目指す子どもの姿」の実現に向けた教育・保育を実施します。
- ②遊びを主とした、園児の主体的な取組を促す環境づくりを推進します。
- ③園児の体験を重視し、体験を経験に発展させる指導・支援を充実させます。

(3) 常葉大学、常葉大学短期大学部及び附属橘小学校との連携

- ①常葉大学、常葉大学短期大学部及び附属学校各校（園）との研究協力、実習協力、交流等について、附属園としての役割遂行に努めます。

## 2. 園児募集・広報活動

(1) 広報活動における電子媒体の活用

- ①ホームページやポスターを活用し、本園の魅力発信を推進します。

(2) 特色や魅力の発信力強化

- ①本園の魅力を理解に繋げる体験会や説明会、個別面談の実施を通じて、安定的な園児確保に努めます。

## 3. 園運営

(1) 園行事の柔軟な実施

- ①主旨や目的を明確にし、園児の充実感や達成感を育む園行事を計画して実施します。
- ②社会情勢の変化を踏まえた、柔軟な対応を図ります。

(2) 職員及び職員組織の力量の向上

- ①職員の各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、自己研鑽に励み組織力向上に努めます。
- ②県私立振興協会による「ECEQ（保育の質の向上を目指した公開保育による研修）」の実施園として、公開保育や園内研修を通して幼児教育の向上を目指します。

## ○ 附随事業

### 〈常葉大学リハビリテーション病院〉

#### 1. 医療従事者等養成校との連携

- (1) 学校教育としての実習受け入れ体制を整えるとともに、医療従事者等養成校との連携を深め、適切な臨床実習を実施します。

#### 2. 組織の活性化

- (1) 安全で適切な医療提供体制を確保し、安定した病院運営を遂行するために、必要とする医療従事者を確保します。
- (2) 国の施策や診療報酬・介護報酬の改定を基に、安定した医療収入の確保対策を実施します。
- (3) 回復期リハビリテーション病棟を有する病院として、24 時間 365 日充実したチーム医療を提供するための施設・設備の整備計画を策定し実施します。